

瀬戸市美術館企画展

昭和100年

瀬戸陶芸

―産業から美術へ―



加藤土師朝/透彫牡丹文高台鉢
大正14年(1925)/口径26.5/瀬戸市美術館蔵



長江明治/花文花瓶
昭和時代前期(20世紀前期)/胴径23.4/瀬戸市美術館蔵



加藤草仙/牡丹文蹄跗鉢
昭和21年(1946)/口径48.5/瀬戸市美術館蔵

2025年

6月21日土～8月31日日

開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日 7月8日火・8月12日火

入館料

一般 300円(240円)
高大生 200円(160円)

※中学生以下、65歳以上、妊婦、障害者手帳
(ミライカード可)をお持ちの方は無料
※20名以上の団体は()内の入館料



瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西茶町113-3
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415

主催：瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団

瀬戸市美術館企画展

昭和100年

瀬戸陶芸

ー産業から美術へー

瀬戸陶芸の始まりー

明治時代以降、瀬戸では産業工芸的な図案研究がされるようになりました。大正時代に入ると図案を用いて陶磁器の芸術性を高めるという意識がより高まり、一部ではありますが創作的な陶芸という意識が瀬戸で芽生え始めるようになります。その先駆けとして、大正3年(1914)、愛知県立陶器学校(現:愛知県立瀬戸工科高等学校)の図案教師である日野厚を中心に、瀬戸初の創作者集団である「瀬戸図案研究会」が結成されます。彼らは当時工芸品が出品できる唯一の政府主催の展覧会「農商務省図案及応用作品展覧会(農展)」への出品など全国規模の活動を通じ、瀬戸の存在を知らしめていきました。



愛知県立陶器学校/人物文花壇
大正2年(1913)頃/高さ28.8cm
愛知県立瀬戸工科高等学校蔵

昭和の陶芸家グループ

陶均会/1924結成

瀬戸図案研究会に続き、大正13年(1924)に加藤土師萌が中心となり「陶均会」が結成されました。これは加藤青山、河本肇亭、矢野陶々等が参加した瀬戸で最初の陶芸家グループです。土師萌、青山、陶々は帝国美術院展覧会(帝展)の美術工芸部門に入選し、これを契機に瀬戸でも陶芸家を目指す若者が次々と登場していくことになりました。



矢野陶々/繪作流落花文花瓶
昭和4年(1929)
高さ28.0cm/瀬戸市美術館蔵

土の風景社・瀬戸作陶会/1929結成

昭和4年(1929)、長江明治や加藤春二が中心となり、陶芸家を目指す若手の勉強会として「土の風景社」が結成されました。昭和6年(1931)に土の風景社は藤井達吉と出会い、創作的な陶芸の基本的な考え方を伝授されるなど啓蒙を受け、達吉の協力により東京での展覧会開催を始めとして中央での大きな一歩を踏み出しました。同会は顧問に河本肇亭、加藤春二を迎え昭和7年(1932)に「瀬戸作陶会」と改称し、ますます活発的な活動を行うようになりました。



藤井達吉/繪作文花皿
昭和10年(1935)頃/口径32.8cm
瀬戸市美術館蔵

春陶会/1930結成

昭和5年(1930)に加藤華仙が中心となり結成しました。元は瀬戸陶器学校の関係者を中心とした彫刻の研究会でしたが、華仙と藤井達吉の出会いにより陶芸家の本質を学び、作陶の幅を広げていきました。同会は板谷波山や各務謙三らを通して、陶芸だけでなく金工・漆芸など工芸全般にわたる講師を瀬戸に招き、会員達に指導を受けさせました。その結果、加藤作助、鈴木青々など多くの会員の加入がありました。

瀬戸陶芸協会/1936創立

昭和11年(1936)には作陶会と春陶会のメンバーを中心とした「瀬戸陶芸協会」が誕生します。分野が異なる陶芸家が一致団結したことは画期的なことでした。特に戦後は、多くの陶芸家が日本美術展覧会(日展)への出品を目指していく一方で、違った方向性を有した陶芸家も次々と世に出て来るようになり、瀬戸の陶芸界は発展し現在に至っています。



鈴木青々/昭和5年(1930)
高さ41.0cm/瀬戸市美術館蔵

関連事業のご案内

2025 7/20日
13:30~

場 所:美術館展示室 / 事前申し込み:不要、要入館料

ギャラリートーク

当館学芸員による作品解説を行います。

2025 8/23日
10:30~14:00~

講 師:水野敬雄氏(市指定無形文化財「陶芸 絞り込み」保持者)

場 所:瀬戸市文化センター22会議室 / 定 員:各回12名
参加料:3000円 / 要事前申し込み(参加多数の場合抽選になります)
応募締切:6/30(月) ※作品完成後、文化センターにてお渡しします

絞り込み体験ワークショップ

小皿と箸置きを2組制作します。



予約はコチラ

次回展覧会のご案内 | 2025 9/13日 - 11/30日

瀬戸市制施行96周年記念

国際芸術祭「あいち2025」連携企画プログラム 瀬戸市美術館特別企画展
「瀬戸の原風景 一陶都瀬戸の記憶を辿る」

近隣施設のご案内

▶瀬戸ミュージアム(TEL.0561-97-1190)

瀬戸電開通120年記念特別企画展
「せとでん やきものの街・瀬戸と歩んだ120年」
2025年4月2日(水)~8月24日(日)

▶瀬戸市新世紀工芸館(TEL.0561-97-1001)

展示棟企画展「ツクリテの仕事-交流棟出品作家展-」
2025年6月21日(土)~7月27日(日)

▶瀬戸染付工芸館(TEL.0561-89-6001)

企画展「瀬戸染付 人物黄昏之図展」
2025年4月5日(土)~7月27日(日)
企画展「瀬戸染付 草花の饗宴展」
2025年7月31日(木)~11月24日(月・振替休日)

▶愛知県陶磁美術館(TEL.0561-84-7474)

盛田昌夫コレクション寄贈記念
特別展「イタリアの磁器-リチャード ジノリのクラシックとモダン」
2025年5月17日(土)~7月27日(日)

瀬戸市美術館 Seto City Art Museum

T 489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3 TEL.0561-84-1093

アクセス

電 車:名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅下車徒歩13分
自動車:名古屋瀬戸道路「長久手I.C.」から約20分
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から約10分

無料駐車場500台



瀬戸市美術館・(公財)瀬戸市文化振興財団HPはこちら
<https://www.seto-cul.jp/>

